



港運輸 株式会社  
代表取締役社長

## 舟瀬 孝好

従業員の笑顔が絶えない会社でありたい——

舟瀬社長が事業を推進する上で大切にしている信条だ。

笑顔溢れる風土からより高品質なサービスが生まれ、顧客満足につながる。

そうして、信頼の輪が広がっていくのだ。

お客様、従業員からの信頼という価値が生まれ、笑顔が咲き誇る場所へ。

社長は一步一步、確かな歩みを進めていく。

**「信頼という価値が生まれ、  
笑顔が咲き誇る場所をつくりたい」**

# 顧客と従業員の信頼の輪を大切に 笑顔で走り続ける運送会社



**港運輸 株式会社**  
富山県高岡市能町 1063-1  
URL : <https://www.minato-unyu.co.jp>

**紙製品の輸送はお任せ下さい！**

長年大手製紙会社の紙パルプ製品原紙の輸送を手掛ける中で培った豊富なノウハウでお客様の多様なニーズにお応えします。もちろん他の製品の輸送においても、熟知した熟練の運転者がお客様の大切な製品を輸送いたします。

富山県高岡市を拠点に紙製品の輸送をメインに手掛ける『港運輸』。同社を牽引する舟瀬社長は、幼馴染である竹村専務と共に顧客と従業員、その家族の信頼の輪を大切に、「笑顔の絶えない会社」づくりに尽力している。本日は、そんな2人のもとを俳優の野村宏伸氏が訪問し、様々なお話を伺った。

——舟瀬社長が現在の事業を手掛けられるようになった経緯から伺います。  
(舟) 当社は私の祖父が立ち上げた会社です。私は別の業界でキャリアを蓄積した後、家業に入りました。入社して1年後には幼馴染である竹村専務に声をかけこちらに入社してもらったんです。猪突猛進型な私のストッパーとして、そして右腕になってほしいという想いで彼を誘った次第です。  
——お二人の強固な絆、信頼関係が窺えますね。

ますね。  
(舟) 入社後、専務はドライバーとして、私は積み込みの仕事を中心に経験を積んでいきました。現場で他の従業員たちやお客様に認めてもらってはじめて、その先の道が開けるといふ思いで毎日必死でした。そうして私は社内のトラックの動きを全て把握できるようになり、次第に専務の周りにはドライバーを中心に人が集まってくるようになったのです。  
——見事、社内での信頼を獲得されるようになったと。  
(舟) 年齢関係なく専務や私を慕ってくる人が出てきて、従業員たちを守りたい、それが自分の役割だと強く思うようになりました。そしてお客様、従業員から信頼される会社をつくりたいと考え、舵取りを担うようになったのです。  
——竹村専務は社長の右腕として、従業員さんとの間に立って良い役割を果たされていることと思います。  
(舟) おっしゃる通りです。私には直接言いにくいこともあるでしょうし、従業員たちにとって専務の存在は大きいと思います。私は「当社が地域ナンバーワン」



「多くの運送業者が集まる輸送協会で、『港運輸』さんのドライバーの立ち居振る舞いが高く評価されていることを聞き、舟瀬社長は『この仕事をやってよかった』と実感されたそう。お話を聞いて、組織としての一体感が大きな推進力になっていると感じましたね。今後は楽しみです」 野村 宏伸・談

という自負を持って日々業務にあたっていますが、従業員たちも同じ気持ちを持って働いてくれていると実感しています。それはやはり専務の力が大きいと思いますし、感謝していますね。もちろん、従業員の頑張りも私の誇り。普段から「ありがとう」ときちんと言葉にして伝えるようにしています。

——従業員さんを大切に思われていることが伝わってきます。人材育成にもさぞ力を入れておられることでしょうか。  
(舟) せっかく縁があって入社してくれたのだから、長く働いてほしい。ですから当社では、「人を育てること」に注力しています。特に、物流企業として安全管理は絶対に遵守しなければならないこと。未経験で入社された方でも確実に、安全に業務を行うことができるよう、丁寧にサポートする体制を構築。免許・資格取得支援体制も万全で、一人ひとりを輸送のプロに育て上げます。  
——それは心強いですね。プロとして誇りを持って働ける環境が整っていると。「人の力」が御社の大きな強みになっていることが窺えますね。  
(舟) 当社は長年大手製紙会社の紙パルプ製品原紙の輸送を手掛けるなど、紙製品の輸送を主軸に据えています。培った豊富なキャリア、経験で以て、紙製品の積込・輸送を知り尽くした熟練のプロドライバーが多く在籍しています。輸送する製品によって積込み方や輸送上の注意点は大きく変わるもの。当社だからこそ、お客様の多様なニーズにお応えすることができる。そして、これまで多くのお客様と強固な信頼関係を築いてきました。「対応力の高さ」も当社の大きな強みだと考えています。  
——大切な荷物の輸送を御社に頼みますね。



代表取締役社長  
**舟瀬 孝好**

たいと思える安心感がありますね。最後になりますが、お二人は今後どのような展望を描いておられますか。  
(竹) 5年、10年経っても、皆が笑顔で笑い合えるような温かい雰囲気のある会社でありたいと思います。もちろん業務の上で厳しさが求められる場面はありますが、きちんと切り替えができるプロが揃っていますから安心です。そういった意味では今一番良い雰囲気が一丸となって仕事ができていると感じますし、少しでも長く継続していきたいですね。  
(舟) 専務が言った通り、従業員の「笑顔」が一番大切だと思います。ただその笑顔を守るためには、稼いでもらうことが必要です。これまでは、祖父と父が築き上げてきた信用の上で事業を推進してきましたが、これからは私たちがさらなる信用を一つずつ築いていき、利益を生

み出せる確かな基盤にしていかなければなりません。そうして従業員にしっかりと還元できる会社でありたい。逆に従業員からは「もう充分ですよ」と言ってもらえるくらいになりたいですね。これからもお客様はもちろん、従業員に信頼される会社であり続け、従業員とその家族の皆さんの安心を追求する——その先で、笑顔の絶えない会社にしたいですね。  
——輝く笑顔の輪が次世代まで続いていくといいですね！  
(舟) そうですね。今後、物流ニーズはより多様化、高度化していくでしょう。時代の潮流を見極め、あらゆるニーズにこたえていくことが重要です。そして、次世代へとバトンをつないでいく——それこそが私共のこれからの役割だと考えています。  
(2021年10月取材)

## Pick up the story : 「家族」と歩む

▼「従業員の笑顔が私たちのモチベーションなんです」と語る舟瀬社長と竹村専務。『港運輸』では社内に絶えず笑い声が響き、アットホームで温かい雰囲気が醸成されている。そんな居心地の良い同社だからこそ、離職率の高い運送業界にあって抜群の定着率を誇っている。一番の若手は21歳、最年長は72歳。孫や親子ほど年の離れた従業員たちが互いに切磋琢磨しているのだという。もちろん歳を重ねれば体力的にできる仕事は限られてくるが、同社では一人ひとりに合わせて負担の少ない業務に変えるなど柔軟に対応している。「先々代、そして先代から、従業員は家族同然だから最後まで大事に面倒を見てあげるんだぞ、と教えられてきました。私と専務はその想いをずっと大切に守っていきたいのです」と社長。脈々と受け継がれてきた想いと共に、大切な家族と歩みを進めていく。

